

1、研究課題名

冠動脈 CT 時のプロプラノロール静脈内投与の安全性に関する検討

2、研究責任者

豊橋ハートセンター 診療放射線技師 技師長 松下俊一

3、研究の概要

冠動脈 CT を撮像する際に、良好な画像を得るためには適切な心拍数(通常 60 拍/分未満)にコントロールすることが重要である。現在その目的の使用に適応があるのは注射用ランジオロール塩酸塩のみである。しかし本薬のみで良好な心拍数コントロールを達成することはしばしば困難で、適応外ながらプロプラノロール静脈内投与を余儀なくされている。本研究ではこれまで岐阜ハートセンター、豊橋ハートセンター、名古屋ハートセンターにて冠動脈 CT 撮像時にプロプラノロール静脈内投与を行った症例における有害事象発生頻度や内容、その際の対応や経過、背景因子等について調査を行うことである。

4、研究方法

・ 対象となる患者様

2012 年 1 月 1 日～2019 年 10 月 31 日に上記3施設において冠動脈 CT 撮像時にプロプラノロール静脈内投与を受けた患者を対象とする。

・ 検討項目

1)有害事象の発生頻度

プロプラノロール投与患者における有害事象の発生頻度。

*有害事象

ショック、血圧低下、徐脈、失神・意識障害、気管支喘息発作、心不全増悪、呼吸困難、皮膚症状、嘔気・嘔吐、めまい、ふらつき、悪寒・戦慄、死亡など。

2)有害事象発生例の解析

①年齢、性、身長、体重

②基礎心疾患と併存疾患

③投与されている薬剤

- ④プロプラノロール投与量とランジオロール投与量
- ⑤投与前の心拍数と血圧
- ⑥撮像時の心拍数と血圧
- ⑦イベント発生時の心拍数と血圧

3) 有害事象の内容と対応、経過

5、研究組織

この研究は、当院でのみ実施されます。

6、個人情報の取り扱い

利用する情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前や住所等、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究結果は学会および学術雑誌にて発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。なお、利用する情報については、当院の研究責任者等が責任をもって適切に管理します。

7、問い合わせ先 豊橋ハートセンター診療放射線技師 技師長 松下俊一

電話 0532-37-3535